

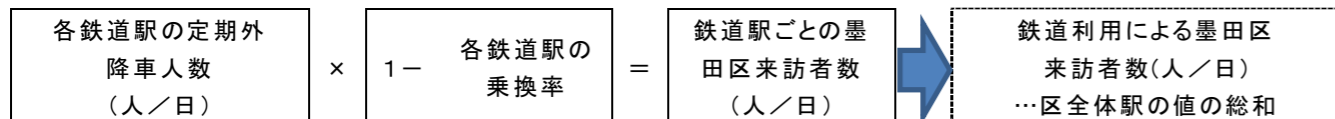
5. 区内観光入込客数の推計

(1)推計方法

区内観光入込客数の推計は、墨田区内にある鉄道駅の乗降客数に関するデータを基に実施する。

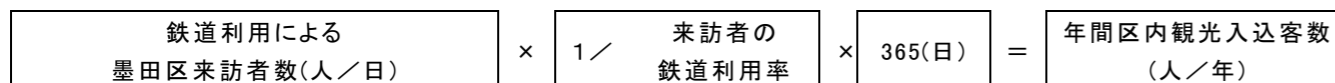
◆Step1: 鉄道利用による墨田区来訪者数(人/日)の算出

墨田区内の鉄道駅に関する、定期利用者を除く、1日あたりの『各鉄道駅の定期外降車人員(人/日)』(東京都統計年鑑、平成27年)をもとに、『鉄道駅ごとの墨田区来訪者数(人/日)』を算出する。区内の駅のうち、乗換駅における降車人員の値には、鉄道路線間の乗換人数が含まれているため、大都市交通センサス(平成27年)から『各鉄道駅の乗換率』を算出し、この値を用いて、実際に墨田区に訪れる鉄道利用者を算出し、最終的に区内全駅の値の和を求め、『鉄道利用による墨田区来訪者数(人/日)』の推計値を算出する。



◆Step2: 年間区内観光入込客数(人/日)の算出

Step1で算出した『鉄道利用による墨田区来訪者数(人/日)』の値に、アンケート調査で取得した『区外からの来訪者の鉄道利用率』に関する値を掛け合わせ、鉄道利用以外の墨田区来訪者を含めた来訪者全体の人数を算出する。ここに年間日数を乗じることで『年間区内観光入込客数(人/日)』の推計を行う。



(2)推計結果

◆Step1: 鉄道駅ごとの墨田区来訪者数(人/日)の算出

右表は、区内各駅の降車人員、乗換率及びその値に基づく鉄道駅ごとの墨田区来訪者数を推計した表である。

推計の結果、1日当たり約15万人が鉄道を利用し、墨田区を訪れている。

■Step1: 鉄道駅ごとの墨田区来訪者数の推計結果

事業者名	駅名	乗換駅	定期外旅客の降車人員(人/日)	乗換率	入込客数推計値(人/日)
JR東日本	錦糸町駅	○	47,227	41.7%	27,549
	両国駅	○	16,400	3.7%	15,791
東武鉄道	とうきょうスカイツリー駅	-	18,367	-	18,367
	曳舟駅	○	6,181	41.4%	3,623
	東向島駅	-	3,734	-	3,734
	鐘ヶ淵駅	-	2,729	-	2,729
	小村井駅	-	1,671	-	1,671
東あずま駅	-	1,542	-	1,542	
東武鉄道	押上駅	○	32,618	60.7%	12,832
東京メトロ	錦糸町駅	○	26,753	41.7%	15,606
京成電鉄	八広駅	-	1,992	-	1,992
	京成曳舟駅	-	3,732	-	3,732
京成電鉄	押上駅	○	66,833	60.7%	26,293
都営地下鉄	本所吾妻橋駅	-	3,562	-	3,562
	菊川駅	-	4,496	-	4,496
	両国駅	○	6,836	3.7%	6,582
合計	-	244,673	-	150,101	

◆Step2: 年間区内観光入込客数(人/日)の算出

上記の数値を用いて年間区内観光入込客数の推計を行う。今回実施したアンケート調査によると、墨田区内への来訪者における鉄道利用率は77.8%であり、鉄道以外の交通機関の利用率は22.2%である。前述の式に基づいて、年間区内観光入込客数を推計すると約7,040万人という結果になった。

■Step2: 年間区内観光入込客数の推計結果

鉄道利用による墨田区来訪者数	鉄道利用率	鉄道以外の交通機関利用率	年間区内観光入込客数【推計値】
15万(人/日)	77.8%	22.2%	約7,040万人

※東京スカイツリータウン来場者数: H25年度 3,927万人、平成28年度 3,138万人(出典: 東京スカイツリータウン広報事務局報道資料)

6. 観光消費額の推計

(1)推計方法

アンケート調査で取得した、来訪者の観光消費額に関するデータと、上記の年間区内観光入込客数に関する推計値を用い、両者を掛け合わせることで観光消費額の推計を行う。

(2)推計結果

推計の結果、墨田区への来訪者の消費行動による観光消費額は年間4,200億円と推計される。

■観光消費額の推計結果

	年間区内観光入込客数	平均観光消費額	【推計結果】観光消費額
今回調査	7,040万人/年	5,959円/人	約4,200億円/年
前回調査	6,510万人/年	6,316円/人	約4,110億円/年

観光消費額等調査【概要版】

1. 調査の概要

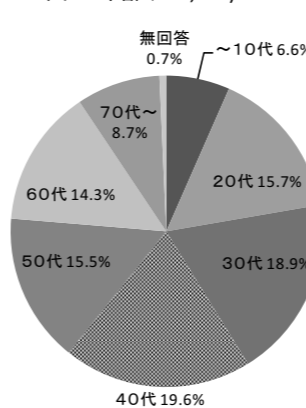
墨田区への来訪者を対象にアンケート調査を実施し、来訪者の区内における立ち寄り地や観光行動、消費行動の実態について把握・分析を行う。また、アンケート結果と既存の統計資料を活用して、区内観光入込客数の推計を行うとともに、その推計結果を用いて区内における観光消費額について推計を行う。

項目	内容
実施場所	「A. 鐘ヶ淵・向島エリア」 …東武博物館 「B. 八広・京島エリア」 …キラキラ橋商店街 「C. 吾妻橋・押上エリア」 …押上駅、とうきょうスカイツリー駅、産業観光プラザ すみだ まち処 「D. 錦糸町エリア」 …JR錦糸町駅前(北口・南口) 「E. 両国・本所エリア」 …両国観光案内所、すみだ北斎美術館
調査方法	ヒアリング調査
調査実施日	2017年11月11日(土)・12日(日)・18日(土)・19日(日)・23日(木・祝)
回収数	1,843件の内、墨田区内在住者を除いた1,386件を用いて分析

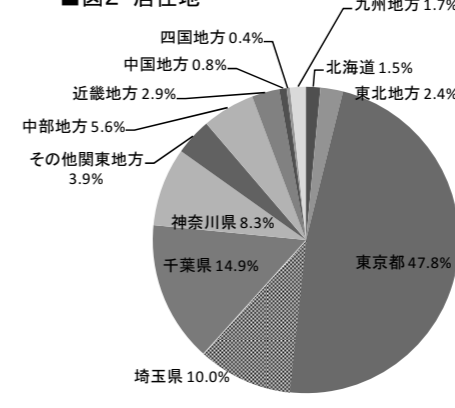
2. 来訪者の属性について

- 性別 男性が約4割、女性が約6割の構成であった。
- 年齢 30代、40代の割合がやや高いが、10代~70代まで来訪がみられる。前回調査と比べ、10代、20代の若い年齢層が増えている。
- 居住地 都内居住者が47.8%であり、1都3県で全体の81%を占める。前回調査と比べ、1都3県の比率が増えている(7割→8割)。
- 同行者 「家族」が39.3%、「友人・仲間」が33.2%、「一人で」が23.7%であった。前回調査と比べ「家族」の割合が減り、「一人で」が増えている。
- 目的 「観光・レジャー」が62.8%と最も多く、「買い物」が18.2%で続く。

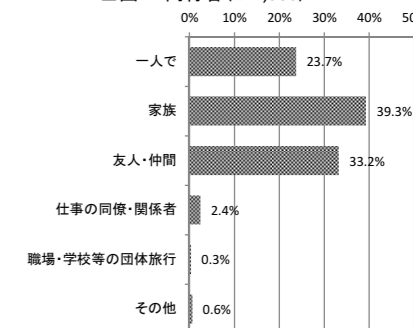
■図1 年齢(n=1,386)



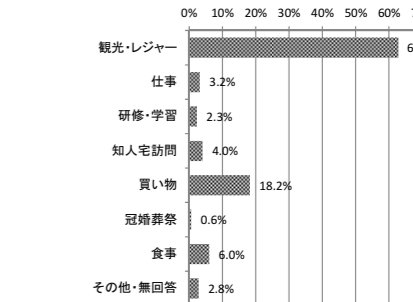
■図2 居住地



■図3 同行者(n=1,386)



■図4 目的(n=1,386)

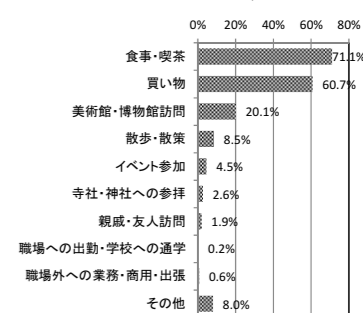


3. 来訪者の観光行動について

(1)墨田区での行動について【複数回答】

- 「食事・喫茶」(71.1%)と「買い物」(60.7%)が60%以上と多い。次いで、「美術館・博物館訪問」が20.1%、「散歩・散策」が8.5%と続く。
- 前回調査結果と比較すると、「散歩・散策」、「イベント参加」、「寺社・神社への参拝」は大きく減少している。一方、「美術館・博物館訪問」は20.1%であり、前回の7.7%と比較し増加している。

■図5 墨田区で行った行動(n=1,386、複数回答)



(2)宿泊について

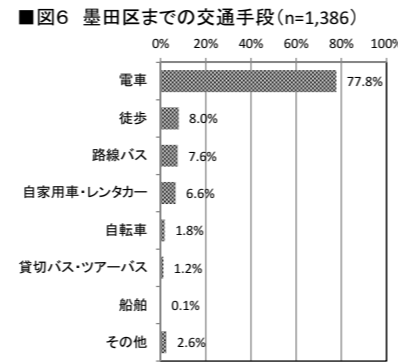
- 「日帰り」が85.5%を占め、前回調査と比べて上昇している。「宿泊」は全体の14.4%で、区内に宿泊したものに限ると4.2%であった。
- 宿泊者の平均宿泊数は2.0泊で、区内に宿泊したものに限ると1.4泊であった。

■表1 宿泊について(n=1,386)

日帰り(宿泊なし)	宿泊あり		無回答
	うち区内宿泊		
85.5%	14.4%	4.2%	0.1%

(3)墨田区までの交通手段について【複数回答】

- ①墨田区に訪れる際に利用する交通手段については、「電車」が77.8%と他の交通手段を大きく上回る。前回と比べても1割以上増えている。
- ②以降は「徒歩」「路線バス」「自家用車・レンタカー」の順だが、割合は1割に満たない。
- ③電車利用者の墨田区での降車駅は、錦糸町駅、押上駅、両国駅が他の駅よりも多くなっており、これらの各駅と観光資源までのアクセス性を向上させることが有効であると言える。



(4)墨田区に対する観光情報の取得方法【複数回答】

- ①墨田区の観光や食事などについての情報を「墨田区に来る前に調べた」割合は27.2%であり、「調べていない」が69.5%と多数を占める。また、「墨田区に来てから調べた」は2.0%であった。前回調査と比較し、事前に情報を調べた割合は低下している。
- ②「墨田区に来る前に調べた」及び「墨田区に来てから調べた」と回答した405サンプルに対し、その情報源を尋ねたところ、「ホームページ等のサイト」が82.7%と多く、「パンフレット・チラシ」は7.7%、「旅行冊子・その他の雑誌」は7.4%であった。
- ③前回調査と比較すると、「ホームページ等のサイト」は前回の65.0%から約10%増加しているが、「パンフレット・チラシ」(前回44.5%)と「旅行冊子・その他の雑誌」(7.8%)はそれぞれ約10%減少しており、紙媒体よりもwebサイトなどの情報が非常に有力な情報源となっている。

(5)来訪者の移動、墨田区での立ち寄り地について

- ①墨田区に訪れる際、居住地等から直行するサンプルが最も多く、80.0%を占める。これは、前回調査(63.3%)よりも高くなっている。墨田区に訪れる前の主な立ち寄り地としては、浅草・上野・新宿が挙げられた。
- ②墨田区までの交通手段は電車の利用が最も多いが、浅草からは徒歩で訪れる観光客も少なくない。
- ③区内での主な立ち寄り地点として、東京ソラマチ®が35.1%と他の立ち寄り地点と比べ圧倒的に多い。二番目に多いのは東京スカイツリー®だが、前回調査と比べると立ち寄り率は半減している(前回調査時の立ち寄り率は34.5%)。また、すみだまち処については、前回調査時と比較し、立ち寄り率が大幅に増加している。
- ④2016年に開館したすみだ北斎美術館については、立ち寄り率で上位に位置しており、有力な観光資源となっている。
- ⑤墨田区からの交通手段としては、往路同様に電車利用者が最も多い。
- ⑥墨田区に訪れた後については、直帰するサンプルが最も多く、71.7%を占める。また、来訪後の主な立ち寄り先としては、浅草・上野・新宿の他に、東京駅周辺・銀座が挙げられた。
- ⑦墨田区での立ち寄り地について各調査エリアでの第一位は、【鐘ヶ淵・向島エリア】東武博物館(11.8%)、【八広・京島エリア】キラキラ橋商店街(2.0%)、【吾妻橋・押上エリア】東京ソラマチ(35.1%)、【錦糸町エリア】錦糸町テルミナ(10.5%)、【両国・本所エリア】両国観光案内所(16.8%)であるが、同一エリア内における他施設の立ち寄り率が低い(各地域において0%の施設が散見される)等の課題がある。

■図7 来訪者の主要な移動ルート (n=1,386)

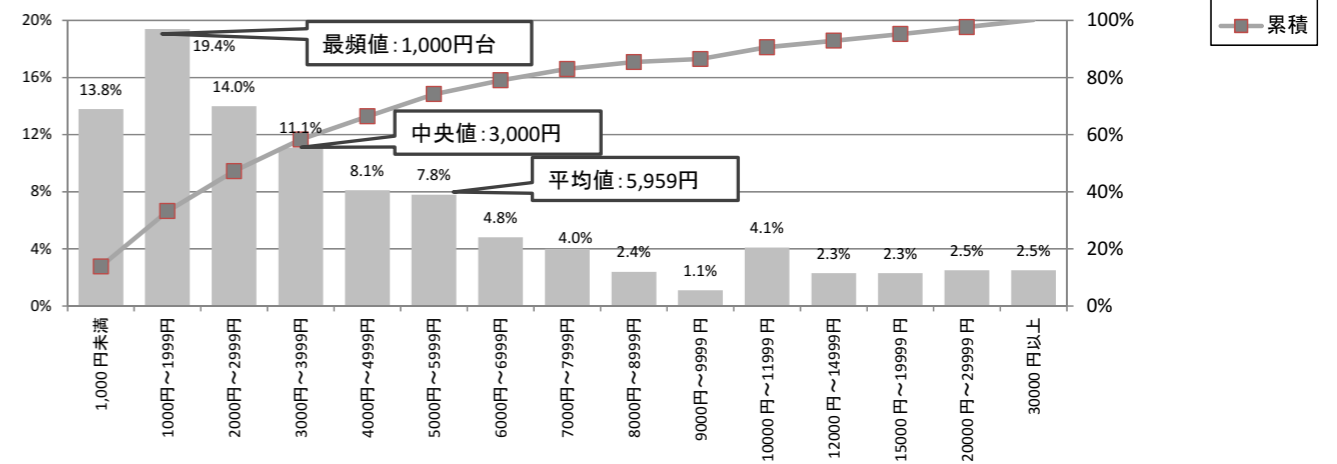


4. 来訪者の区内における観光消費行動について

(1)観光消費額の算出

- ①来訪者の消費行動について、一人当たりの「宿泊費」「飲食費」「土産物代」「施設使用料」「交通費」「その他の支出」の6項目及び「消費総額」について算出を行った。
- ②消費を行った1,332サンプルに対する全体消費額の平均は5,959円であった。最頻値は1,000円台(1,000円~1,999円)、中央値は3,000円で、前回調査と比べ平均値で約360円、中央値で750円ほど減少している。

■図8 墨田区内での消費額:消費総額について(サンプル数=1,332)



(2)項目別の観光消費額

- ①宿泊費: 宿泊者(サンプル数=44)の平均値は20,163円で、最頻値は15,000円台であった。
- ②飲食費: 7割にあたる958人が飲食をしており、平均値は2,403円で、最頻値は1,000円台(1,000円~1,999円)、中央値が1,500円となっており、来訪者の多くが1,500円前後で飲食していることがわかる。
- ③土産物代: 4割にあたる554人が土産物を購入しており、平均値は3,099円で、最頻値は1,000円台(1,000円~1,999円)、中央値が2,000円となっている。

■表2 墨田区内での消費額:項目ごとの消費額について

費目	今回調査				前回調査	
	サンプル数	平均値	中央値	最頻値	サンプル数	平均値
宿泊費	44	20,163円	10,000円	15,000円台	131	10,420円
飲食費	958	2,403円	1,500円	1,000円台	1,288	1,986円
土産物代	554	3,099円	2,000円	1,000円台	834	3,104円
施設利用料	447	1,297円	400円	0円台	809	1,940円
交通費	178	698円	400円	0円台	666	682円
その他の支出	371	6,334円	2,000円	1,000円台	310	5,341円
総消費額	1,332	5,959円	3,000円	1,000円台	1,566	6,316円

※費目ごとに消費があった方のみで集計。

■表3 日帰り/宿泊客別の墨田区での項目別の消費比率

	サンプル数	宿泊費	飲食費	土産物代	施設利用料	交通費	その他の支出
日帰り客	1,143	-	71.8%	36.0%	31.3%	13.2%	31.5%
宿泊客	187	21.9%	73.8%	65.2%	48.1%	13.9%	18.7%

- ④施設利用料: 34%にあたる447人が施設利用料を払っており、平均値は1,297円で、最頻値は0円台(60円~999円)、中央値が400円となっている。東京スカイツリー(「天望デッキ」の当日入場券2,060円)の利用率が減少したこと、江戸東京博物館が休館中であったことなどの影響で前回の平均値1,940円を下回る結果となった。
- ⑤交通費: 13%にあたる178人が交通費を払っており、平均値は698円、中央値は400円となっている。残りの87%は区内の移動に費用をかけていない。
- ⑥その他の支出: 3割にあたる371人がその他の費用を払っており、平均値は6,334円、中央値は2,000円となっている。

(3)来訪者の観光消費行動

- ①全体としては、日帰り客が約85%を占め、宿泊客と比べると土産物代、施設利用料の消費比率は低く、3割台に留まっている。
- ②区内での交通費の支出のある方の比率も13%と低く、区内の複数の観光地点を交通機関を利用して行き来する方は少ない。実際に今回調査での立ち寄り率1位の「東京ソラマチ」(487人)と、両国エリアにおける立ち寄り率1位の「両国観光案内所」(233人)の両方を訪れた方はわずか9人、「東京ソラマチ」と鐘ヶ淵・向島エリアにおける立ち寄り率1位の「東武博物館」(163人)の両方を訪れた方も17人と少ない。人気スポットからの回遊が今後の観光振興の課題と考えられる。